

令和6(2024)年度 栃木県浙江省友好交流員レポート(11月分)

栃木県浙江省友好交流員 加藤 かれん

早いもので3回目のレポートとなります。11月は学校でできた友人と旅行をしたり、多くのイベントに参加をさせて頂きました。これまで中国でしかできない貴重な体験を数多くしてきましたが、今月も毎日が充実しており、あっという間に過ぎ去った一か月間でした。

🍷 浙江大学の本科生が主催のバーベキューに呼んで頂いた。杭州の喧騒から離れ、自然に囲まれた中にアスレチック場スペースがあり、アーチェリーや4輪バギーの運転を体験することもできる、広く充実した施設で一日楽しめた。最後に花火をして、思い出に残る一日となった。



🍷 メルマガ「とちぎ通信」での現地レポートでも触れているが、現地人に混じりローカルなお店でザリガニを食べてみた。頭は食べられないので、お腹の部分の殻をむき食べる。見た目インパクトがあるが海老と同じ食感で気に入った。

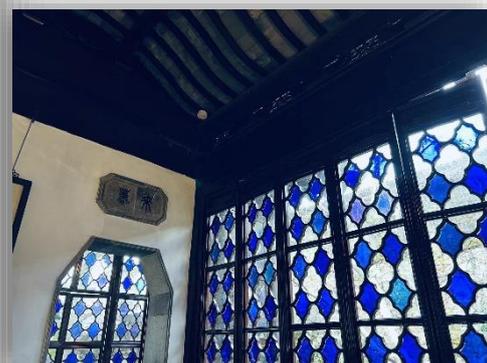
バーベキューにて→

中国でお馴染みとなった羊肉の串焼き。



🗺️ 一泊二日で蘇州旅行をしてきた。蘇州は杭州から高铁に乗り一時半程。東洋のヴェニスとも呼ばれ、運河が張り巡らされる。

1509年に設立され、1997年に世界遺産に登録された蘇州で最も有名な庭園、拙政園(せつせいえん)は古典建築物と自然が融合した風情溢れる空間であった。入場料70元(約1400円)。



天女発見。
いつか衣装
を借りて写
真撮影をし
てみたい。

耦園(ぐうえん)こちらも世界遺産登録されている。

「耦」という漢字にはペアや調和という意味があり、夫婦が静かに隠居生活を送るために作られた庭園。カップルズ・リトリート・ガーデンとの別名があり、夫婦やカップルに人気のスポット。

透かし彫りの窓を通して見る風景が更に絵画のように見えて美しさを引き立たせていた。

←左は東園(夫の庭園)に見られた丸い窓で、太陽を象徴している。

→右は西園(妻の庭園)に見られた楕円形の窓で、月を象徴している。



七里山塘(しちりさんとう)は蘇州で最も美しい古街と称される。七里はその街の長さを指す。日本の一里は約3.9 kmだが、中国の一里は約500 mなので七里(全長約3600 m)となる。運河クルーズや食べ歩きを楽しむことができる。夜の運河沿いに赤い灯籠が並び幻想的であった。



↑紹興名物の松鼠桂魚
(揚げスズキの甘酢あんかけ)

♥結婚式へ招待して頂き、紹興酒で有名な紹興市へ。

中国の結婚式は基本的に自由でドレスコードが決まっておらず、和気あいあいとした空間が広がる。中国でお祝いのカラーとされる赤で式場全体が包まれ、色鮮やかなテーブルクロスや飾りつけが印象的。

←喜糖(シータン)

飴やチョコなどの甘いお菓子が入っている。甘い幸せをおすそ分けしてもらった。

紅包(ホンバオ)ご祝儀袋→





△紹興市にある有名なスポットを訪れた。
新昌大仏寺は歴史的な仏教寺院。
4世紀頃に創設されたとされ、約1700年の歴史を持つ。
静寂な雰囲気の中で、仏教の精神を体感できる。
大仏を拝むには階段を何段も上がって行かないといけない。
かなり大きな大仏が寺院内に祭られていた。



↓「南無阿彌陀仏」文字が上から見えた



△十九峰景区は新昌大仏寺の近くにある自然景勝地。

19の岩峰を持つことからこの名が付く。

壮大な岩並みが続き、登っていくと圧巻の景色が広がる。

岩の間を結ぶ橋を何度も渡って行くので、高所が苦手な方は注意。

岩を上る道は遊歩道が整備されているため、傾斜が強い場所でもハイキング感覚で歩くことが出来た。



帰り道はローラーコースターで。

今月も多くの素敵な機会に恵まれ、言葉に言い尽くせない良い経験が沢山できた一か月間であった。中国の永い歴史の一部にも触れることが出来た。友好交流員としての残りの期間が少なくなってきた寂しくもあるが、日々ある素晴らしい出逢いに心から感謝し残りの時間を大切にしながら毎日を過ごしたい。年末は学期末テストが待ち受けているので勉強も忙しくなるが、来月も実りある一か月間を送りレポートにて発信できたらと思う。

